

商業教育の中における情報デザイン科, その取り組みと役割

青森県立黒石商業高等学校教諭 菊谷 哲

1. はじめに

1973年(昭和48年), 青森県のほぼ中央部に位置する黒石市に本校黒石商業高等学校が設立された。本校は設立当時, 事務科, 営業科, 情報処理科, 商業デザイン科の併せて4科からなる単独商業高校であったが, 特徴的なのは青森県では初の開設となった情報処理科の設置, そして商業デザイン科の設置である。ことに公立高校における商業デザイン科の存在は全国でも珍しく, 岐阜三田高校, 富山北部高校, 和歌山商業高校, それと本校の4校であった。また, 30年前, 県内で初めてプレザーを制服として導入したという背景には, 「新しい理念に基づいた学校をつくろう」という, 燃えるような先達の想いを感じ取ることができる。

その黒石商業高校も今年で創立30周年を迎える。昭和54年に事務科, 営業科は「商業科」に, 商業デザイン科は平成3年「情報デザイン科」にそれぞれ学科転換された。30年という節目を迎え, 新たな歴史を刻もうとする気運の中, ここでは本校情報デザイン科の取り組みを紹介しながら, 商業教育におけるその役割を模索してみたい。

2. 教育課程表にみる本校デザイン科の推移

右表は本校創立時の商業デザイン科, および現在の情報デザイン科の専門科目群教育課程表である。

両者の教育課程表を比較すると, 前者においては商業, 美術, 工業と細分化された教科で構成されていること, 後者においてはコンピュータに関するカリキュラムが開設されていることが目を引く。

商業デザイン科は設立以来, 美術教育を背景としながら「マーケティング活動をより効果的にすることを目的とした造形面からの協力」を教育目標としてきた。美術教育のもつ「美的表現方法」に加え, 工業教育のもつ「論理的思考」を商業教育に加味しながら総合的なデザイン表現を目指してきたといえる。現在のカリキュラムはそれらのエッセンスを包

含する形で構成され, 運用面で幅広い活動が可能となった。その背景には学科の特色を鮮明に出し, スペシャリストの育成を目的とする近年の商業教育の動向がかがえる。

また, 後者の教育課程表に見受けられるコンピュータを活用したグラフィック表現に関するカリキュラムは, 平成3年度入学生から学校設定科目として開設され, 現在に至っている。Windows98MS-DOS版の生徒半数分の導入から始まり, 平成10年にはMachintosh PowerMac 8600が生徒の台数分整備された。情報化とともにデザイン表現もアナログからデジタルへと変化を見せ, 以降本校デザイン教育がコンピュータ操作に費やす比重も大きくなった。

この学科名称の改称とコンピュータ機器の導入は, 本校「商業～情報デザイン科」にとって大きな転換期となったことは間違いない。

教科	科目	1年	2年	3年
商業	商業一般	3		
	簿記会計Ⅰ			3
	電子計算機一般		2	
美術	基本造形	5	♂2	
	総合実習			♂2
	写真(印刷)			3
	美術史		2	
工業	デザイン実習		5	5
	デザイン製図	3		

昭和48年度入学生教育課程表(一部)

教科	科目	1年	2年	3年
商業	ビジネス基礎	2		
	課題研究		2	
	総合実践			4
	情報処理	2		
	コンピュータグラフィックス		3	
	グラフィックデザイン	6		
	デザイン実習		6	4
	コンピュータアート			4

平成16年度入学生教育課程表(一部)



平成16年度、機種変更に伴ってデザインの汎用機種Macintosh PowerMac G5が生徒分整備された。



通行人の視線を感じながら、必然的に作業に熱が入る。

3. 地域との連携、実践の記録 ～街づくりへの協力と発表の場を求めて

発表する場、展示できる場、さらには日常の活動が生かされる場があるということは生徒を一回りも二回りも大きくする。そこから何を、何を学ぶことができるのか、その深さは計り知れない…。津軽平野の南東にひらけた黒石市は、今も江戸時代商家の趣をそのままに残す小さな城下町である。街の中心部は雪国独特の木造アーケード「こみせ」が続く「日本の道百選」の一つでもある。人口4万人弱のこの小さな街と本校デザイン科は、さまざまな形で連携を深めてきた。依頼、協力、アプローチと活動、そして反省。学ぶということの意義の所在を最も身近な「地域」に求めた実践事例のいくつかを紹介したい。

(1) 黒石郵便局巨大壁画への挑戦

これから建設される黒石郵便局の工事場が、その工期中市民の目を楽しませるようにという依頼から、平成2年6月18日～21日、黒石郵便局建設予定地に「黒石の四季」と題する壁画製作が行なわれた。図案のプランニングには全員がかかわり、その中から最も壁画としてふさわしい原画1点が選び出された。修正を加えられた原画は、体育館で実寸大の模造紙に写し取られ、4日間で工事場に描き上げられた。これまでの机上のデザインワークは大きな広がりを持ち始め、小さな個人がともに協力し合うことでたとえようもない大きな成果を残しただろうことは想像に難くない。

市民から好評を博し、加えて郵便局のご厚意もあって、その図案が記念切手に採用された。さらに



工事場に描かれた壁画完成時の集合写真。かけがえのない思い出が制作された。



現在の黒石郵便局駐車場の様子。完成から14年を経てもなお、色褪せず壁面に記憶された「黒石の四季」。

は駐車場壁画としてその記憶は半永久的にそこに残されることになった。

(2) ふるさと再発見～文学の森など

平成3年、黒石商工会議所が中心となって「地域小売商業活性化推進事業（街おこし推進事業）」がスタートした。「授業を通して街に役立つことはできないか」…当時の担当者である工藤武四先生（平成15年度ご退職）は、そのことについて次のように述べている。

……こんな「街おこし」のニュースが、一昨年あ

たりから新聞をにぎわしてきました。-街の人が頑張っている-そのような印象を強く受けました。同時に、商業デザインの教師として、私が主担当として指導している商業デザイン科2年生の生徒たちともども、この「街おこし」に協力できることはないだろうかと、思うようになりました。……………

(1993 教育美術への寄稿から)

黒石市東端に位置する黒森山に「文学の森・浄仙寺」がある。そこには黒石ゆかりの文人たちの文学碑 17 基がたたずんでおり、工藤先生指導の下「文学の森・その他の文学碑紹介のためのデザイン」として、さらには近隣にある中野もみじ山の句碑「川柳の杜」を制作させ、多くの人の目に文芸の里黒石を強くアピールした。



平成 13 年度黒石商工会議所青年部記念事業として制作された「絵馬回廊」。黒石の歴史的建造物を絵馬形式になぞらえて奉納した。



平成 14 年、文学碑の題材を「くろいしの文学碑」として焼き直した。翌年 5 月、浄仙寺で行われた「秋田雨雀法要忌」にも展示し、関係者を喜ばせた。



津軽三味線奏者の渋谷幸平さんは、自作の CD アルバムのカバーデザインを本校生徒に依頼してきた。演奏会を行いながら、そのイメージを深めていった。

4. 新たな歩み、そして近未来的高校生像 ～プレゼンテーション能力の育成と起業家精神

「おいしかったね。」
「じゃあそろそろ私達帰るね。」
「あっ！ゴミはそのゴミ箱に捨ててね。」
「なんか多くない？」
「結構いっぱいになるんだね。」
「ねえー。」
「いらっしゃいませこんにちは。ハッピーラッピングを考えるハンバーガーショップ ハピラピ黒石商業店へようこそ！」
「皆様は月に何回ファーストフード店をご利用になりますか？そして、そのたびに出るゴミの量をご存知ですか？ファーストフード店を利用した時、ゴミの量が多いと感じたことはありませんか？ファース



平成 12 年に制作された地元「養鶏場」入り口の大壁画。



トフード店に来店されて、ゴミのことを気にする方はあまりないのではないのでしょうか?」

上記の文章は、第10回全国高等学校デザイン選手権大会（主催東北芸術工科大学）で準優勝した、本校情報デザイン科チームのプレゼンテーション原稿冒頭の一部である。このあとファーストフード店における包装紙の現状を精緻な調査と分析で検証し、過剰包装に対する新たな提案が展開される。3名の軽快な口上とパフォーマンスはリズムよく本題へと滑り込み、見るものに感銘を与えた。

また、以下の事例は「レトロ」コンセプトによるショップのシミュレーション事例である（懐古主義的な発想を新たな商品開発に取り入れていった事例）。「こんなショップがあったらいい」、とすれば「こんな商品を売っていたらいい」、「店の外観はこんな感じがいい」、「こんな宣伝がちょうどいい」…生徒たちのシミュレーションはとどまることを知らない。C.I.（コーポレートアイデンティティー）を考え、自ら未来を企画立案していく姿に「ひょっとしたら本当に実現するのではないか」と思ってしまうほどのリアリティーをもっている。



情報デザイン科では、各單元においてプレゼンテーションの実施を最終目標に置いている。デザインワークにおいて「コンセプト（着眼と発想）」は始点であり、「プレゼンテーション」は終点である。何を企画し、その企画をどう伝達するか。伝達の余波は深く、そして大きいほうがよい。さらにビジュアルに対して効果的に訴えかける素材について、生徒は敏感に流行をキャッチしている。文化は刻一刻と生きていく人間の営みの最大公約数である。情報メディアの普及と大きな情報化の波は、必ずしも悪影響ばかりを与えてはいない。むしろそれらを肯定的にとらえ、新しい文化の創造に寄与していこうとする高校生の彼らの中に「プレゼンテーション能力の育成」や「起業家精神の育成」、つまり「生きる力」が着実に根付いていると感ぜられるのである。



「黒石サイクルポート計画」（部分スライドから）
3D画面を用い、アニメーション効果で駐輪場の整備を訴えかけた。平成13年度第1回景観デザインコンテストのグランプリ受賞作品。



県の助成を得て社会人講師を招聘する特別非常勤講師制度を実施したのは、学科転換された平成3年度からであった。以降、今年度で14回を数え、多彩な特別授業が展開された。



近隣の百貨店文化ホールを使用して毎年実施される卒業制作展。三年間の集大成となるこの展覧会は、生徒にとって到達すべき大きな目標である。

5. さいごに～再び、「基礎・基本」

30年という年月の中に教育内容の大きな変化が

あった。本校情報デザイン科においては商業デザイン科からの学科転換が大きな分かれ道となって、未来への道を模索している。製図器からコンピュータへ、制作から活動へ、表現の「道具」と「形式」は大きな変化を見せつつある。また、一方ではそれを活用する「心」の問題も見え隠れする。急速な技術革新と変わらぬ発達段階の狭間で試行錯誤しながら、再び「基礎・基本」に立ち返る。

ものごとに真摯に取り組む姿勢、豊かな発想、地域や他者に貢献しようとする気持ち、生きる力、問題解決能力…。「どうすれば…?」という疑問を前にしながらも、さまざまな角度からものごとを考え、「向上心」を忘れず「努力」を惜しまない若者…。

本校情報デザイン科の全活動において、それら一般人として常識的なことが当たり前に育まれ、その土壌の上に新たな人間文化の芽を生み出す若者が数多く巣立っていくことを心から願っている。

実教出版発行 全商模擬試験問題集

2005年版 全商簿記実務検定模擬試験問題集

1級	原価計算	定価420円
1級	会計	定価420円
2級		定価410円
3級		定価390円

平成16年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集

COBOL	1級	定価700円
COBOL	2級	定価630円
Visual Basic	1級	定価800円
Visual Basic	2級	定価670円
ビジネス情報	1級	定価800円
ビジネス情報	2級	定価650円
	3級	定価600円

平成16年度版 全商商業経済検定模擬試験問題集

1・2級	商業法規	定価680円
1・2級	マーケティング	定価680円
1・2級	商品と流通	定価630円
3級	ビジネス基礎	定価630円

平成16年度版 全商珠算・電卓実務検定模擬試験問題集

1級	定価700円
2級	定価650円
3級	定価550円

平成16年度版 全商ワープロ実務検定模擬試験問題集

1級	定価770円
2級	定価680円
3級	定価660円
3・4級	定価680円
キートレーニング+4級	定価650円